



医療安全対策セミナー「考えよう転倒転落防止と身体拘束」

山梨大学医学部附属病院 伊藤雅美
転倒転落対策の解決に悩んでおり、9月7日に開催された、杉山良子先生の講演に参加しました。講演から転倒転落は他の医療事故と異なり患者さんの要因が大きいこと、その要因をとらえるためには患者さん目線で考え患者さんの身体的・心理的背景を理解すること、の重要性を再認識しました。また、転倒転落発生をプロセスでとらえ、アセスメントスコアシートや運用ルール、学習機会の仕組み作りを評価する重要性も再確認する機会となり有意義な一日となりました。

看護学生の医療安全ゼミ活動の報告

健康科学大学看護学部 山本富士子
本学の学生の医療安全活動は、学生が「医療安全を学びたい」と教員に相談したことから始まり、今年で8年目を迎えます。活動の目的は①安全とは何かを考え、共有し、発信する、②医療や福祉の場の安全について考えるです。今年度からは活動が評価され、ゼミ形態での活動へと発展しています。医療安全ゼミ活動の意義として、新人看護師として医療現場に立つ時、医療事故防止の知識・技術、チーム連携による医療安全の取り組みを理解し行動できる人材に育つと考えます。

医療安全教育の充実にeラーニング教材活用



医療安全啓発ポスター

山梨OQTでは、12年間連続で活動を医療の質・安全学会にて発表しており、過去にはベスト・プラクティス賞も戴いています。医療安全教育担当者様が日々苦勞している医療安全教育を“まじめに、楽しく”支えます。ぜひご活用ください！

編集後記 会報担当:菊地 野沢

力を合わせて、安全な医療、看護を提供しよう！

一般社団法人山梨医療安全研究会ホームページ
<http://yamanashi-iryoanzen.com>
(face book も開設しています)

パネルディスカッション「共有しよう！身体拘束、転倒転落の現状と予防対策」に参加して

山梨県立中央病院 井上亜紀
パネルディスカッションでは、パネラーや参加者の日頃感じている悩みや各施設の考え方、取り組みを共有することが出来ました。転倒転落予防対策としてやむを得ず身体拘束を行うこともありますが、3原則(切迫性・非代替性・一時性)について多職種で十分に討議して実施の有無を決定することが必要です。看護の基本ではありますが、患者の生活環境・生活リズムを整え、拘束を極力せずに安全に過ごせるケアを医療者として提供していきたいと改めて思いました。

北杜市立甲陽病院 菊地佳代子
看護師、薬剤師、作業療法士のパネリスト各4名の視点から発表がありました。マンパワー不足のなかどう患者様の安全を守っていけばいいのか。各施設で対策チームを立ち上げ積極的に活動していました。課題山積のなかで、患者様と身体拘束をせざる得ないスタッフの身体や心の安全を守りつつ、身体拘束に依らない安全対策について、積極的な意見交換ができました。

医療安全管理担当者の紹介 No.19

白根徳洲会病院 白砂麻里
私は2年前に医療安全管理者となり、今年度より山梨医療安全研究会の仲間入りをしました。今まで個人を批判せずシステムを改善することに注力してきました。また報告をしやすくすることや、お互いを褒め合うことを重要と考え、レベル0の報告からファインプレイ賞を選出し表彰する、各部署の確認を正しく行っているスタッフを選出し表彰するイベントを行っています。エラーに対して前向きに取り組める組織を作りたいです。

2月15日 医療安全対策実践報告会 開催！

開催場所:山梨大学医学部附属病院シミックホール
発表者は、「発表者用」QRコードより、1月中旬までにお申込み下さい。抄録登録・発表方法をお伝えします。現在実践している安全対策を共有しましょう！報償もあります！詳しくはHPをご覧ください

